第３節　群馬県の生物多様性と暮らし

私たちの暮らしは、生物多様性とその恵みの上に成り立っています。本節では生物多様性とその恵みを礎に発達してきた本県の生活、文化、産業について記載します。

１　自然公園等

国立公園・国定公園などの自然公園等の優れた自然環境は、環境教育や生涯学習の場、多様な動植物の生息・生育、森林の豊かな機能の維持など、私たちに様々な恩恵をもたらしています。

本県は、自然公園として３つの国立公園（日光、尾瀬、上信越高原）と１つの国定公園（妙義荒船佐久高原）があります。県立公園のうち赤城、榛名及び妙義の３公園は自然とのふれあいの場として利用され、豊かな自然環境を求め、県内外から多くの人が訪れています。

また、豊かな自然環境や身近な自然環境の保全を目的に、県内には１地域の国指定自然環境保全地域と 26 地域の県指定自然環境保全地域、５地域の県指定緑地環境保全地域が指定されています。

森林が持つ優れた自然環境を、休養、学習の場として利用することや環境保全の啓発を目的に、県内７か所の県立森林公園[*11]が整備されています。

さらに、都市部には、５つの県立都市公園[*12]が整備され、県民に潤いや安らぎを与えています。

これらの公園は、私たちの環境教育や生涯学習の場として、また、群馬県の生物多様性を保全し利用するための重要な拠点として、多様な動植物の生息・生育や森林の豊かな機能の維持など、様々な恩恵をもたらしています。

また、近年、地球活動が生み出したダイナミックな地形地質を持つ場所を、大地の保全を図りつつ、環境教育等に活かすため、ジオパークの選定が行われています。

県立赤城公園

県立榛名公園

県立妙義公園

*11：伊香保森林公園、赤城森林公園、赤城ふれあいの森、さくらの里、桜山森林公園、みかぼ森林公園、21 世紀の森

*12：敷島公園、金山総合公園、群馬の森、観音山ファミリーパーク、多々良沼公園

2　里山・平地林

里山と平地林は、私たちの生活や文化の礎となるとともに、人が利用することで維持されてきた自然環境の中で、生物多様性を保ってきました。

里山は、集落の近くにある雑木林、森林などの人が利用することにより生態系が保たれてきた場所のことを指します。古くからキノコや山菜、燃料となる薪、肥料となる落ち葉、家具や工芸品の材料になる木材や竹などのように、私たちの生活に必要なものを与えてくれ、地域の人々の暮らしを支えています。

近年は、里山から資源を得なくても生活が成立するようになり、身近なものではなくなりつつあります。人が利用しなくなった里山は、ササや竹などが繁茂し、地域住民による保全活動が行われています。

また、里山は、人が利用することにより維持されてきた自然環境であり、カタクリ、カブトムシ、ホタルなど動植物の生息・生育の場となっています。現在では、人が利用しなくなったことによる植生の変化などにより、里山の動植物の生息・生育環境が縮小しており、各地で保護活動が行われています。

平地林は、防風林や社寺林などの平野部の林・森林のことを指します。

本県の特徴でもある冬場の強風「空っ風」から屋敷の中の家屋を守るために、屋敷の北側から西側にかけて樫で造られた防風林の一種である防風垣「かしぐね」が発達しました。

また、農地と農作物を強風から守るための防風林もあり、古くから「空っ風」に適応して暮らしていたことがわかります。現在では維持管理に手間がかかることなどからその数を減らしていますが、県内各地でその風景が残っています。

社寺林は、神社や寺などの敷地内に成立している森林のことで、鎮守の森とも言われています。人々の信仰の対象となると同時に、オオタカやアオバズクなどの野生鳥獣のすみかにもなっています。

平地林の中には、前橋市の赤城神社の参道松並木や板倉町の雷電神社などのように、県の自然環境保全地域・緑地環境保全地域に指定され、地域住民に維持管理されることにより良好な自然環境を保たれているものもあります。

平地林は、平野部で自然とふれあえる貴重な場として親しまれ、野生動植物の生息・生育の場になっています。

ホタル（みなかみ町）

雷電神社（板倉町）

3 農業と食料

本県の地形や気候は、豊かな食文化を形成してきました。豊富な水と長い日照時間、標高差を利用した多種多様な農作物が生産されています。

本県では、豊富な水と長い日照時間、標高差のある耕地を活かし、１年を通じて多種多様な農産物が生産されています。

夏季の冷涼な気候を活かした高原キャベツやレタス、本県ならではの景観を形成するこんにゃく畑や粘土質の重たい土が作る下仁田ネギなど、地形や気候を活かした農作物が栽培されています。県内各地では、きゅうりやほうれん草などの野菜、リンゴや梨などの果樹の生産も盛んで、首都圏を中心に全国の人々の食卓を支えています。また、シクラメンやカーネーションなどの花きの生産も盛んで、県内はもとより首都圏にも出荷されています。

さらに、長い日照時間や水はけのよい土壌は、小麦の生産に適しているため、古くから小麦栽培が盛んです。このため、うどん（水沢、桐生、館林）やおっきりこみ、すいとん、焼きまんじゅうといった粉食文化が昔から広く浸透しています。

下仁田ネギ

リンゴ

水沢うどん

焼きまんじゅう

4　信仰と歴史

険しい山岳地や神社などは、人々の信仰や畏怖の対象であったため、豊かな生物多様性が保全されています。

群馬県（上野国）の一宮は、およそ 1500 年の歴史があるとされる貫前神社です。貫前神社では、養蚕と機織りの神である姫大神も祭られており、絹産業が盛んな地ならではの特徴が表れています。

県内には、上毛三山に祭られた赤城神社、榛名神社、妙義神社をはじめ多くの神社が点在しています。赤城山は、山そのものを神体とみなして「嶽様」と呼ばれ、信仰を集めています。また、榛名神社に関しては、江戸時代には農業の神様として農民を中心に「榛名講」が組織され、全国から多くの参拝者が訪れたと言われています。他の山々にも、同様の山岳信仰があったと考えられています。

江戸時代には、江戸と京都を結ぶ中山道が整備され、現在の高崎市新町から安中市を経由して碓氷峠までの道筋には 7 つの宿場があり、にぎわいをみせていました。安中市内には、700 本以上の杉が植えられ、杉並木を形成していました。昭和初期には 300 本以上が生存し、国指定天然記念物として指定されていましたが、国道の舗装や排気ガスの影響などもあって枯死が進み、現在では樹齢 200 年から 300 年の古木は数えるほどになっています。しかし、近年地元の人々の協力により、植樹など保全の試みが行われています。

人々の信仰や畏怖の対象となった神社、山岳地、並木などには、かつての面影を残している場所があります。それらは、私たちの安らぎの場となっているだけではなく、都市部の重要な緑の拠点や生きものの生息・生育の場になっていることが多く、生物多様性を保全し利用するための重要な拠点となっています。

5　絹産業

蚕、風穴、桑などの自然資源の恵みを受けて地場産業として発展した絹産業は、生物多様性のつながりが見える産業です。

本県の蚕糸業は 1200 年以上の歴史を有しており、日本の近代化と戦後の復興を担った産業であり、地域経済の発展と文化の形成に寄与してきました。

明治５年、我が国初の官営製糸工場である富岡製糸場が建設され、以後、見渡す限りの桑畑の中に製糸工場の巨大な煙突が林立する、上州の風景が形づくられました。徳富蘆花は、その風景を「機の音、製糸の煙、桑の海」と詠っています。

当時は、日本からの輸出額の半分が生糸、更にその３分の１が群馬県産という時代であり、大正時代までは、県内の総世帯の半数以上が養蚕農家でした。

蚕は、「身上（家財、財産）をつくるのもつぶすのも蚕」と言われ、「命がけ」で飼われ、「オカイコサマ」「オコサマ」と尊称で呼ばれていました。

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、日本が開発した生糸の大量生産技術によって特権階級のものであった絹を世界中に広め、人々の生活や文化を豊かなものに変え、日本の経済基盤を支えたことを伝えています。

また、女性が、古くから養蚕･製糸･織物で家計を支え、近代では製糸工女や織手として活躍しました。働き者の女性たちを男性（夫）たちは「おれのかかあは天下一」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代では内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっています。「かかあ天下－ぐんまの絹物語－」は、こうした「かかあ」たちが支えた群馬の絹産業を 12 の構成文化財で紹介しており、日本遺産*13 に認定されています。

現在、群馬県の繭生産量は全国の４割、生糸は６割を占めており、日本一の蚕糸県として確固たる地位を維持しています。県内で親しまれている上毛かるたにも、「ま：繭と生糸は日本一」とあるとおりです。

高度な製糸の技術は、風合いと気品をあわせ持つ高級生糸「ぐんまシルク」を生み出しており、海外でも高く評価されています。

なお、国の研究機関を中心に、産学官が連携した遺伝子組換えカイコの研究が進められています。県では、カイコの遺伝子組換え技術が、新たな産業の創出や絹産業の再興に期待できることから、実用化研究に取り組んでいます。

●コラム●「風穴」

溶岩流や浸食などの長い歴史の中でできた岩と岩の隙間は、冬場に岩が冷却されることから、冷気を溜め込んでいます。春先には、この隙間に雪解け水が入り込むことで地下に氷ができ、その氷が溶けながら夏でも冷たい風が吹き出ているものが「風穴」です。

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産である荒船風穴は、岩の隙間から吹き出す冷風を利用し、明治 38 年から大正３年に造られた蚕種（蚕の卵）の貯蔵施設です。冷蔵技術を活かし、当時年１回であった養蚕を複数回可能にしました。３基の風穴があり、貯蔵能力は国内最大規模で、取引先は全国 40 道府県をはじめ朝鮮半島にも及びました。現在でも大きな石垣が残り、夏でも２度から３度の冷たい風が吹き出しています。

このほか県内には、中之条町の東谷風穴や、渋川市のわしの巣風穴などが今も形を残しています。

荒船風穴（下仁田町）

*13：【日本遺産】地域の文化や伝統の歴史的魅力や特色を語るストーリーを、国が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力ある有形・無形の文化財を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に情報発信することにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

6 温泉

県内には多くの温泉があり、泉質も多様です。多くの人々が癒やしを求めてその恩恵を享受していますが、それは豊かな水資源や地形環境によって生み出されたものです。

県内の山々に降った雨が長い時間かけて地下に浸透し、火山活動により、その地下水がゆっくりと温められて湧き出したものが温泉です。

県内には、この豊かな水資源の恩恵である温泉に、宿泊施設を伴う場所が 103 か所（源泉数 455 か所）あり、国内 10 種類ある温泉の泉質のうち、９種類があります。

草津、伊香保、水上及び四万の四大温泉に加え、千年以上の歴史を持つ梨木温泉、やぶ塚温泉などの古湯、そして、温泉マークの発祥地となった磯部温泉など個性豊かな温泉地が数多くあります。

これらの温泉地は、県内外から多くの観光客や湯治客が訪れ、癒やしの場として利用されています。

また、芳ヶ平湿地群の「チャツボミゴケ公園」は、強酸性の湯が湧出しており、チャツボミゴケ*14 が広範囲に自生する国内最大規模の群生地です。強酸性の環境を好んで生息するチャツボミゴケと鉄バクテリアの生物活動の副産物として鉄鉱が生成されており、かつては鉄鉱石が採掘されていました。

草津温泉（草津町）

温泉記号碑（安中市）

チャツボミゴケ（中之条町）

*14：【チャツボミゴケ】硫黄泉や硫化金属鉱山付近の流水中や湿岩に生育するコケ